

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO. 51 (2008年NO. 2)	報告者	鈴木 仁
年 月 日	2008年06月15日(日・快晴) = 2日目	2万5千	八海山・奥只見湖
山 名	越後駒ヶ岳(2003m)		
体力度 = 4・やや厳しい 技術度 = 3・普通 道標 = ある クサリ場・鉄のハシゴ = あり 駐車場 = ある トイレ = 駐車場にある 展望度 = 素晴らしい 三角点 = 一等三角点			
堂々たる越後の山			
コース とタイム	民宿保栄館発 5:30 - 枝折峠 6:15 着 - 道行山分岐 7:40 - 小倉山 8:20 - 百草の池 9:10 - 駒の小屋 10:00 - 越後駒ヶ岳頂上(昼食) 11:00 ~ 45 - 駒の小屋 12:15 - 小倉山分岐 13:30 - 駒の湯 15:00 ~ 15:30 - 長泉 22:00		
標 高 差	上り = 枝折峠 1065m - 越後駒ヶ岳 2003m = 938m 下り = 越後駒ヶ岳 2003m - 駒の湯 380m = 1623m		
参 加 者	L 後藤隆徳、(大塚睦志) 伊藤従人、(近森正彦) 井上弘二郎、永尾 広、石和加代子、河野光江、原田伸一郎、村上美恵子、山本 一、峰田光江、鈴木 仁、(一般) 鈴木美恵子、(松岡直紀) () = 別メニュー		

民宿保栄館で山菜ばかりの十分な？栄養補給と英気を養った登山隊は5時30分昨日同様ドリーム観光のバスにて枝折峠へ向かう。急峻な登山道から雪を頂いた越後駒ヶ岳の雄姿が見られると、誰とも無く感嘆の声が聞かれ、これからその頂上を踏破しようとする気持ちが高揚していくのが解る。



6時20分 1065m 枝折峠。枝折峠駐車場に着くと早朝に係わらず既に幾多の車が止まっていて、この山行きの長さが容易に想像される。

メンバーのうち大塚さんは昨日の権現堂山で越後の山を十分に満喫したこと、奥只見湖に行ってみたくて言うことで、ここで一行とは別行動となる。

駐車場から登山道に入ると直ぐに冬

眠から目覚めたイワカガミ、タニウツギ、チゴユリ等が春の大合唱のように一面に花を咲かせていた。

高度が1200m以上の緩やかな尾根道が続き、「銀の道」と交差する明神峠に「明神堂」の小さな祠と「十合目大明神・駒ヶ岳頂上へ」の道標がある。しかし今後高さをカウントする道標はなかった。低灌木間の縦走を繰り返しながら爽やかな汗をかく。

7時 1200m。靴紐の緩み・服装の調整のため一本休みを入れると松岡さんが昨日の登山疲れにより登頂を断念。付近を散策しながら越後の春山を楽しむことになる。ま

た同様に近森さんも松岡さん一人での行動の心配・自身の体調不良により歩を緩めた穏やかな山行きに計画変更。

7時40分 1250m 道行山分岐通過。1200～1300mの高度を繰り返す尾根道には春を謳歌するカタクリ、鮮やか色でありながら可憐なショウジョバカマ、その後名前の由来により大いに盛りがったタムシバ、駒ヶ岳を代表するシラネアオイが山行きを楽しませてくれている。

次第にゆったりとしたその全容を見せる駒ヶ岳に胸弾ませると同時に左には幾多の頂上を持ち特異な荒沢岳が登山隊を後押ししてくれる。

1400mを超えると幾度と無く雪田を越え、後藤講師が準備していたピッケルを頂上の訓練にと使い出す。これからの雪田が楽しみだ。

8時20分 1355m 小倉山分岐。ここからの展望は良好で、雪田から眺望する雪化粧した駒ヶ岳が登山隊を手招いている。

1470m付近ではカッコウの鳴き声。越後の春はわずかな時を惜しむように雪解けを待ちきれずに咲く花々・春告げ鳥ウグイスから、カッコウの一鳴きにより一挙に夏に向かっていく。

9時1540m 百草の池。花々が咲く地糖と草原が広がっているらしいが、残念ながらその様子を今日は想像するしかない。ここから山容は変わり登りが急になっていき、火照る体に雪田を渡る涼風が心地良い。

10時10分 1870m 駒の小屋。最後の汗をかき岩稜帯の急登をペンキ印や鎖場を目印に登ると、小さいながらも登山者を優しく待ち受ける駒の小屋が突然姿を現す。来たなあ。もう少しで頂上だ。小屋の前で身も引き締まるような水で口をすすぎ。頂上を望む。



10時45分 小屋前から隊列を整えピッケルを片手に頂を目指す。蒼い空そして燃えるような碧の山々を覆う輝くばかりの雪。雪田を噛みしめるように刻む靴音。越後の春を求めてきたこの瞬間もう頭は空っぽだ。

11時 2003m 頂上。やったあ～駒ヶ岳踏破。誰もが一番心を弾ませ、この瞬間を求めてみんな山に来て

いるんだな。苦労してなし得た達成感・体験者しかできない満足感・仲間と来た連帯感。全てに万歳だ。

見渡す限りの眺望、魚沼三山が見えて越後の山に来たんだと感じる。谷から次々に湧き上がる雲により全容が見えない山々もあるが、梅雨のこの時期にこれだけ越後の

山々が見られれば、もう満足である。

個人的には八海山プランが不完全燃焼であったが、そんなことに余りある頂上からの景色である。



11時45分下山開始。ここで雪田を見て後藤講師の雪遊びが始まり、みんなにグリセードを教授。さすが講師は慣れたもの颯爽と雪田を滑走する。負けじと長尾さん。うんグット。峰田さんもなかなかやるなあ。確かにグリセードで降るのは早いし、楽しい。少しは雪山の楽しみの入り口を覗いたかな。

絶頂は幸せの小さな空間だった

12時15分駒の小屋。水分補給し再度隊列を整え下山。ピストンでは楽しくないと枝折峠から駒ノ湯にルートを変更。その旨を講師が運転手と連絡を取るが運転手はなんと松岡さんには会ってないとのこと。今までの楽しみが一挙に吹き飛び不安に駆られる。別れたところはまだ稜線に取り付く前であり滑落の危険は無いように思われるし、入り込む山谷も深くなく。しかし枝折峠駐車場付近には他に行けるような場所は無かったようだが。。。。

兎も角無事を祈りつつ近森さん・運転手による搜索に期待をする。

13時30分1378m小倉山分岐。駒ノ湯方面に歩を進める。駒ヶ岳をバックに記念写真。

行く手は若干の藪こぎ状態も所々にある。確かにルート紹介ではこちらがメインルート。でもこの藪？も昨日も経験したばかりであり、その比ではなくグングンと高度を下げていく。

15時380m駒ノ湯。高低差1620mは降りがいがあったが、松岡さんに連絡が付かないことによる気がかりでいつもの充足感が得られなかった。

しかし振り返って見た駒ヶ岳は大きく、その山を踏破できた喜びは心に広がっていく。車道を今日登った山の話をしてながら歩いているとドリーム観光のバスが来た。乗車数は1人、2人、3人。良かったあ。全員いるぞ。松岡さんは時間に間に合えば良いと思いつ近を散策してたとのこと。

無事に何より。本当に良かった。

立山竜胆

この山を通じて感じたことー

- ・個人山行でなく団体山行きの場合は個人行動を厳に慎むこと
- ・団体で行動できる体力・技術を確保・維持すること
- ・体調不良・技術未取得の方に確実なフォローを



・連絡は充分に取れるようにすること

そしてなんとと言っても山に行くんだから山の素晴らしさを感動しよう！



片栗

紫八汐躑躅



小岩鏡



白山小桜



コシジオーレン





白根葵

辛夷 (コブシ)



雉筵
(キジムシロ)



燕万年青
(ツバメオモト)



猩々袴 (シヨウジョウバカマ)



* 山の花の報告は、別途石和さんが
報告致します。



バンザイ! 山よ、ありがとう!!

